

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町 23 番地 3
日本生命一番町ビル 5 階
公益社団法人 青年海外協力協会 気付
E-mail: info@japan-malawi.org
Home Page <http://www.japan-malawi.org/>
Tel: 042-510-9138

【マラウイ共和国】

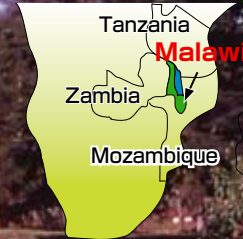
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1,760 万人 (2016 年、国家統計局)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ピーター・ムタリカ
為替レート：US\$ 1 = MK 718.51 (3 月 2 日現在)
MK 1 = 0.15 円 (3 月 2 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。国内会員数：186人(3月現在)



マラウイ共和国 国旗



トピックス

マラウイ共和国 政治経済概況

2017年2月22日(水) 19:15~20:30にJICA地球ひろば2階セミナールーム201ABで、3年あまりの任期を終えて昨年12月に帰国された西岡周一郎前駐マラウイ日本大使に標記の講演をお願いしました。以下は日本マラウイ協会事務局による講演の抜粋です。



▲《西岡周一郎前大使とチリマ副大統領》

1 マラウイ概要

マラウイの自然条件では地域の標高差が興味深い。北部地域の海拔 2,000m を超える地域から南部の 100m 未満の地域までである。マラウイ湖の湖面は海拔 475m である。

人口は 1,760 万人 (2016 年、国家統計局) である。社会条件の特徴として人口増加率の高さがあげられる。2009 年~2014 年の平均増加率は 2.92% であるが近年では 3% を超えている。

2 政治 (内政)

1964 年に英国から独立以来、国政は平和的に推移している。1966 年に共和制に移行し 1993 年からは複数政党制を導入している。アーサー・ピーター・ムタリカ現大統領 (民主進歩党 (DPP)) は第 5 代大統領である。マラウイには現在、4 つの主要政党があるが、イデオロギーの相違は殆ど無い。大統領になると元の政党から離れ新党設立して来ている事が背景にある。

自分が就任した時にはジョイス・バンダ大統領 (人民党 (PP)) であった。彼女はアフリカにおける 2 人の女性大統領の 1 人であり国際的にも大変人気があった。しかし 2013 年 9 月に発覚したキャッ

シゲート事件 (公金横領事件) が引き金となって 2014 年の総選挙では敗北した。それを受け現政権は、汚職撲滅や公務員改革などがバナンズ改善を優先課題に据えている。

3 政治 (外政)

現政権は貿易・投資の促進を喫緊の課題とし、精力的な外遊などを通じ各国に働きかけを実施している。アフリカ連合 (AU)、南部アフリカ開発共同体 (SADC)、東南部アフリカ市場共同体 (COMESA) などを通じた地域の友好・善隣外交に努めており、内陸国なのでとくに周辺国であるザンビア、タンザニア、モザンビークとの関係を重視している。タンザニアとはマラウイ湖の国境問題があるが平和的な解決を目指して対話を続けている。

2007 年末に台湾と断交し中国との外交関係を樹立以降、中国は各種援助案件を実施している。

4 主なマクロ経済指標

国民の 85% が農業従事者、農業が国内総生産 (GDP) 全体の 30% を占める農業国である。当国の一人当たりの国民総所得 (GNI) は世界で最も低い 250 ドル (2014 年) である。国内総生産 (GDP) は 42.6 億ドル (2014 年) で成長率は 2.8% (2015 年) である。世界的な鉱物資源価格の低迷でアフリカの鉱物資源国 (たとえば銅を生産するザンビア) の成長率が低下傾向にある中で、マラウイは鉱物資源国とは言えないが、洪水や干魃による自然災害の影響で成長率は低下している。またインフレ率並びに政策金利も他国と比べ高いが少しずつは改善している。為替レートは 1 米ドル = 720 クワチャ (2017 年 2 月 マラウイ中央銀行)。

5 対外貿易状況

貿易赤字は年々拡大傾向にある。主要輸入品目は燃料、肥料、機械、医薬品、自動車など、主要輸出品目は農産品が主で、タバコ、ウラン (現在生産停止)、砂糖、茶、ナッツ類などである。

今までは葉タバコが 40%~60% と圧倒的な割合を占めている。一時期、ウランが主要輸出品目に加わった。これはオーストラリア企業による生産

で、アフリカ西海岸経由でカナダに特別な輸送船で輸出していた。しかし 2011 年の東日本大震災を機に原子力発電所でのウラン需要が世界的に減った。ウランはアンゴラとナミビアでも産出している、輸送コストが高いマラウイ産ウランは国際競争力が低くマーケットが縮小するといち早く操業休止に追い込まれる。

有望な輸出品がなかなか見当たらない中で、今後は単価の高い鉱産物や付加価値の高い農産品が期待される。

6 国家予算の推移と内訳

国家予算は 2015/16 年度で 9,230 億クワチャ、2016/17 年度では 1 兆 1,370 億クワチャでクワチャ建てで見ると増加となっている。ただし国家予算を円換算すると 1,500 億円~1,600 億円程度で杉並区 (人口約 56 万人) の一般会計と同規模である。以前は予算の中でドナーからの財政支援が 4 割程度を占めていたと言われていたが、2013 年のキャッシュゲート事件によって大幅に縮小し、援助はほぼプロジェクト支援だけになった。減った予算については政府が国内銀行からの借り入れで補うこととしたが、借入金利が高く支払い金利も含め厳しい財政状況が続いている。ドナーの中でマラウイ政府の公共財政管理の改善がなされれば、一般財政支援再開を検討している機関もある。

歳出では公務員給与の割合が大きい。また債務利子の大きさが懸念材料になっている。2015/16 年度の歳出の分野別内訳では教育分野に 1,562 億クワチャ (17.44%)、農業・食糧安全保障に 1,352 億クワチャ (15.1%)、保健分野に 825 億クワチャ (9.21%) の予算が配分されている。若年人口増を考えると教育分野への歳出は今後とも増加する見込み。

7 近年の財政・経済動向

2012 年 7 月、国際通貨基金 (IMF) が対マラウイ拡大信用ファシリティ (ECF) で 1 億 5,600 万ドルの拠出を決定したことでマラウイは一息ついた。しかし 2013 年にキャッシュゲート事件が発覚し欧米ドナーの一般財政支援が停止された。そのため 2014 年に就任したピーター・ムタリカ大統領

は公共財政管理の徹底を公約の一つとした。また援助に関しては伝統的ドナーに加えて BRICS 重視の方針を明言、その中でも中国への期待が大きかった。その後 2015 年 1 月に南部を中心に豪雨による大洪水があり、つづいて旱魃に見舞われたため、メイズの生産が前年の 390 万トンから 270 万トンに激減した。この緊急事態に対しては BRICS だけで無く伝統的ドナーに多くを頼る事となり、2015 年からは BRICS シフトと言うより全ドナーとの好関係の維持が重要な柱となっている。一方、中国はピング・ワムタリカ大統領政権の国交樹立時には大規模な建設案件の援助を約束し実施して来たが、現政権に対しては当時のような大きな援助額を短期で実施していく動きにはない。これから見込まれる中国の大型案件は石炭火力発電所である。

2016 年にもエルニーニョ現象に起因する旱魃により、670 万人が食糧危機に直面したためマラウイ政府から総額 3 億 9,000 万ドルの支援要請が出され、国連、世界銀行、アフリカ開発銀行、米、西欧各国、日本などが中心に支援をした。日本は 2016 年に 730 万ドルを国連機関に拠出し、昨年夏に緊急支援として 185 万ドルを、さらに今回、補正予算から 370 万ドルを拠出する。

キャッシュゲート事件発覚後から続く欧米ドナーの一般財政支援停止、自然災害による食糧危機、対外債務の増加、高金利による民間投資の遅れ、インフレ率の上昇とクワチャ安、世界的商品市況の低迷等により厳しい財政運営を余儀なくされていて、経済の低迷が続いている。

マラウイの対外債務は 19 億ドルを超える水準。

8 日本政府による対マラウイ援助

日本は経済成長のための産業基盤・インフラ整備、教育や水分野などの基礎的サービス向上を重視している。

【援助実績 (累計)】

無償資金協力 331.49 億円 (2007 年以降支援無し)
無償資金協力 652.28 億円 (2014 年度末時点)

<最近、交換公文 (E/N) 署名を行った無償資金協力>
2015 年 3 月 テザニ水力発電増設計画 (21.8MW)
2015 年 11 月 カムズ国際空港ターミナル拡張計画

技術協力 415.13 億円 (2014 年度末時点)

(一例:一村一品運動実施能力強化プロジェクト)

【草の根案件】

社会・経済開発・文化・スポーツに資する案件をこれまで約 100 件実施 (上限 1,000 万円)

(一例:中等学校理科実験室の建設)

【食糧援助】

JICA、国連機関 (WFP、UNICEF)、日本の NGO を通じて緊急食糧援助および強靱性強化事業を実施

【TICAD VI】

2016 年 8 月に初のアフリカ開催 (ナイロビ)

「質の高いインフラ」整備などを通じ、アフリカの「質の高い成長」の実現を支援

カムズ国際空港ターミナル拡張計画は 38 億円のプロジェクトで 2018/19 年に完成予定である。この空港については長年援助している。現在の空港設備は欧州基準から見ると一定水準に達していないが、このプロジェクト完了後は、より多くのエアライン参入が期待される。

中等教育では過去 20 校を超えるコミュニティ・デイ・セカンダリー・スクールを支援して来ている。またリロングエの中等教員養成学校も支援して、中等教育を重点にした支援を行って来ている。

技術協力で象徴的なこととして、当国への 1971 年派遣開始以来の青年海外協力隊の派遣累積数が世界一 (2017 年 2 月現在 1,741 人) であることがあ

げられる。去年 4 月に就任した外務大臣はセカンダリー・スクールで協力隊員に理科数科を習ったこともあり協力隊事業に理解がある。



▲ (第二回柔道大使杯にて (2015 年))

TICAD VI が 2016 年に初めてのアフリカでの開催となった。今後は 3 年ごとの開催となろう。安倍首相が 1 千万人の人材育成やインフラ整備などへの官民あわせて 3 兆円の支援を確約した。ただしその国別配分が決まっている分には無く、これから個々に詰めて行く事になる。

3 年あまりの任期期間中、二国間の大きな政治的懸案事項はなかった。経済面では日本との貿易と日本からの投資拡大への期待が大きかった。実際にはすでに JT の子会社である Japan Tobacco International 社がマラウイで生産する葉タバコの 2 割強を原料として購入・加工して世界中の同社工場に向けて販売している。逆にマラウイでは新車・中古車を含め輸入車の 8 割強を日本車が占めている。日本からの投資拡大にむけては農産物が協力できる分野の候補になろう。両国は地理的には遠く離れているが、最近では日本の商社もマラウイでの事業に参画しつつある。カムズ国際空港ターミナル改修整備事業は丸紅の子会社が受注、従事している。他方、モザンビークのテテで産出する石炭をマラウイを通じてインド洋に運ぶナカラ港に運ぶ鉄道が通じているが、この路線を含むマラウイ国内の鉄道事業は Central East African Railways (CEAR) 社によって運営されている。同社の親会社はブラジルの鉱山会社の Vale 社であり、この鉄道輸送・港湾事業に日本の商社である三井物産が参画する意向を表明している。日本企業の参画が実現すれば石炭以外の物資輸送の拡大も期待され、時間はかかるが少しずつ経済分野での関係も広がりつつある。一方、人の交流は最も重要で、青年海外協力隊員のマラウイ派遣や JICA の研修事業で多くのマラウイ人が日本訪問している他、各種奨学金事業を通じて多くのマラウイの若者が日本で勉学に励んでいる。2020 年の東京オリンピックにむけてスポーツの価値を世界に広める活動の一環として、日本の伝統的な武術である剣道・柔道の大使杯を毎年行って来た。またマラウイ剣道協会へは日本マラウイ協会にも支援を頂いている。スポーツフォートゥモロー事業として、高橋尚子さんを招いて、障がい者によるランニング体験を実施し、これらがきっかけとなってリオパラリン



▲ (マラウイ剣道協会ソンバ会長と (2016 年))

ピックにマラウイから初めて選手を送った。また日本の Undokai をマラウイの幾つかの小学校で過去 3 年間開催し、スポーツを通じた日本の貢献はマラウイの各界にも認知されている。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックにはリオ以上に多くのマラウイ人選手に参加してほしい。

ニュース 新しい駐日マラウイ大使と駐マラウイ日本大使の着任

元かんがい水開発省副大臣のグレネンガー・キドニー・ムスリラ・バンダ (Grenenger K. M. Banda) 氏が駐日マラウイ大使に着任し 2016 年 12 月に皇居で信任状捧呈を行いました。一方、元 JICA 理事の柳沢香枝氏が駐マラウイ日本大使に着任し 2017 年 1 月にリロングエで信任状捧呈を行いました。

当協会の野呂会長、貝塚専務理事、鶴田理事の 3 名は、12 月に外務省に柳沢新大使を表敬訪問して当協会を紹介するとともに、1 月にはマラウイ大使館にバンダ新大使を表敬訪問して当協会を紹介し今後の協力について意見を交換しました。

バンダ大使は 1992 年に JICA 研修で来日した際に皇居を外から見たそうです。自分に皇居に入る機会が来るとは思っていませんでしたが今回大使として入ることができたとのことでした。

私たちにご縁のある両大使がお元気でご活躍されますようお願い申し上げます。

投稿 『グローバルフェスタ JAPAN2016 レポート』 & 『マラウイ母の会 活動紹介』

マラウイ母の会: 佐藤順子

2016 年 10 月 1 日、2 日の土日、東京お台場のセンタープロムナードで、「グローバルフェスタ JAPAN2016」が開催されました。これは、国際協力活動を行う政府機関、NGO、企業などが一堂に会する国内最大級のイベントです。今年もステージやトークショー、ワークショップなどプログラムは盛りだくさんで、会場にはカラフルな衣装が行き交い、民族音楽が流れ、スパイシーな料理の匂いと色々な国の言葉が入り乱れる、お祭り騒ぎの二日間でした。



日本マラウイ協会のテントでは、マラウイの地図や写真、資料を展示し、民芸品を販売しました。今回は、マラウイで学校給食支援活動をしている「せいぼじゃぱん」が初参加し、デクランさんと廣澤さんが日替わりでテント内を盛り上げてくれました。

せいぼに負けてはいられないと張り切ったのが私たち、2006 年から毎年参加の「マラウイ母の会」です。今年も手作りのチレンジバッグやエプロン、ポーチ、シュシュなどを販売しました。2015 年に会場が日比谷公園から移って来場者の年齢層が微妙に変わり、売り上げは伸びませんが、他のテントを見て歩いたり、日本マラウイ協会の方々や、せいぼのスタッフ

との交流、OV や関係者の方々とのお喋りを楽しみました。



マラウイ母の会は、2004 年マラウイに派遣される隊員を空港で見送った留守家族数名が、情報交換のために集まったのがきっかけです。以来任地を訪ね、国際協力の難しさを知るうちに、自分たちも日本で何かできないかと、チテンジバッグの製作を思いつきました。やがて日本マラウイ協会の協力によりグローバルフェスタなどでの製品販売が実現し「母の会基金」ができました。

JICA マラウイ事務所の協力で「母の会寄付要綱」も整備し、現在も現地の隊員から申請を受けています。これまで隊員の活動資金として約 10 件、70 万円以上を寄付することができました。直近では、資金不足で工事がストップしていたルウェレシヘルセンターの産科病棟のために、屋根、壁、床の資材とベッドなどの資金約 16 万円を送りました。村の方々の力を得て完成した病棟の写真をみると、チテンジバッグ作りにも熱が入るというものです。



派遣中の留守家族のみならず、何かご心配がありましたら、母の会にご相談ください。押入れにチテンジがあるという OV もどうぞ。グローバルフェスタで私たちがお待ちしております。

『帰国隊員レポート』

平成 26 年度 3 次隊 坂井 晴香
(任地：カロンガ 職種：コミュニティ開発)

私は 2015 年～ 2017 年まで北部のカロンガ県にコミュニティ開発 (旧：村落開発) 隊員として活動していました。県農業開発事務所に配属され、主に有機肥料と改良かまどの普及に取り組みました。農家さんや農業普及員と出来る限り同じ時間を過ごし、農業に携わることへの認識が甘かったのを痛感しました。私は普段の買い物で産地や有機野菜かどうかを気にして生活していました。農業を使うことが人体にも自然の循環にも好ましくないためです。しかし、小規模生産という背景から、農業に依存せざるを得ない農家の現状を知り自分の浅はかさが身に沁みました。また発展途上国を支援する立場にある私たちが、逆に彼らの貴重な時間をいただいてボランティア活動が成り立っているということを知り、申し訳ない気持ちと感謝の気持ちが入り混じった状態で毎日を過ごしていました。

私はたくさんの方のことをマラウイアンから教わりました。一緒に植えた方がいい作物、保全農業 (conservation agriculture) の重要さ、収穫量によ



▲ (フィールドデーにて農業技術を共有しあう農家さんたち)

り生活を左右されるので新しいことに取り組むことが難しいこと、そんな農家さんからの理解を得ること、など列挙したら切りがありません。その中で普及活動を展開するに当たり、これまでの暮らしで伝えられてきた暗黙知というものに私たち外部者 (アウトサイダー) がどれだけ寄り添えるかがその知識に触れるための鍵となります。

その土地に暮らす人たちが元来持っている知識のことを indigenous knowledge (地域・民族固有の知) と言います。ユネスコによると、「この知識は彼らの日々の生活基盤に関わる意志決定に関っています。この知識は長きにわたる自然との相互作用を通じた歴史を持つ社会によって育まれた理解、知識や哲学を統合したものです。こうした独特の知識を活用することは世界中の文化的多様性において重要で、地域に適した持続的な発展において基礎となる」と言われています。



▲ (有機肥料の作り方を学ぶ講習会に参加)

森林伐採やそれに伴う土壌流出が進むことで、農業を続けることが将来的に難しくなる危険性が高まっています。それは飢えに直結し、益々マラウイ政府が援助に依存する結果に繋がるとでしょう。世界が均一化に向かう中で、小さなコミュニティにおける繋がりやセーフティネットとしての役割を果たすことが益々大切になります。

マラウイでの学びを糧に、自分の感じた課題への理解を深めるために大学院に進むことにしました。その様子はこちらに綴ります。(Now and Here : <http://dayanddaygoodday.blogspot.jp/>)



▲ (やる気のあるメンバーの家族とともに)

先に述べた、土着の知識や彼らの主体性を生かして持続的なコミュニティの形成に貢献できるようにまずは勉強して参ります。皆様、今後ともよろしくお祈りします。

『帰国隊員レポート』 マラウイの柔道事情

平成 27 年度 & 28 年度 9 次隊 天野 康治

任地：リロングエ 職種：柔道
(現在、横浜市立大学在学中)

■参加動機

私は中学から柔道をはじめ、人生の大半といってよい位、情熱を注いできました。しかし公立大学で可能な練習量と環境では全国級の選手として活躍するという道は難しく、選手としての道以外にも何か柔道に対して貢献できる道を探していました。そこに柔道部と懇意にさせていただいている大学の教授から青年海外協力隊の短期派遣という道があると紹介を受けました。これは柔道に対して貢献でき、更には在学中に海外での経験ができるよい機会と考え、一ヶ月の短期募集に応募しました。そこで自身の力不足を実感し帰国後フィリピンに留学、語学力をつけマラウイの柔道協会の問題点解決のためもう一度短期派遣をされました。

■配属先

配属先のマラウイ柔道協会は 2010 年に発足したばかりであり、メンバーはすべてボランティアであり、派遣当時専門で従事できる人はいませんでした。

■マラウイの第一印象

空港から出たときの熱気、きれいな青空、一面のトウモロコシ畑でアフリカに来たことを実感しました。道端を歩けば「ニーハオ」か「こんにちは」と誰もが声をかけてきます。Warm heart of Africa といわれるだけあって心理的な距離の近い国だと感じました。

■現地の柔道の状況

マラウイではリロングエ、ムズズ、ブランタイヤに柔道場があり、その中のひとつの首都リロングエでの指導に従事しました。

生徒の数はマラウイ人のコーチが 3 人、大人が 10 人程度、学生も 10 人ほど、子供は 15 人ほどで、生徒の総勢は 30～40 人ほどでしたが日によって来たり来なかったりがありました。生徒の職業はほぼ軍人であり、それ以外の人は学生でした。

マラウイの柔道のレベルはコーチのレベルも日本の高校生ほどであり、高くありません。立ち技も寝技も力任せであり、その点を改善する指導の必要を感じました。レベルとしてはまだまだでしたが、選手たちのモチベーションは高く、いつかはオリンピックに出たいと明確に目標を持っています。そして、前任の隊員の指導がいきわたっており、みな道場に入るときは一礼し、礼の理解をしていました。この点は非常に感銘を受けました。マラウイでは柔道をやりたいという人は多いが経済状況から難しいのが現状であり、私の指導相手は比較的裕福な人が多かったです。



▲ (マラウイ柔道協会の生徒たち)

■現地での活動

柔道の技を教えレベルを上げるのもそうです

が、協会の問題点を洗い出し改善することも重要な業務でした。
 具体的には
 ・指導の不正確さ→普段の指導
 ・生徒数の少なさ→メディアを呼び柔道大会、小学校での柔道指導
 ・柔道着や畳など設備の不足→現在寄付プロジェクトを日本にて
 ・生徒たちの依存体制→問題に対して答えを与えず考えさせる
 が大きな問題点であり、改善に取り組みました。

■一番嬉しかったこと

生徒たちのモチベーション維持のために年に一回行われる「日本大使館主催の柔道大会」とは別に、自ら企画した柔道大会、小学校での柔道指導などで、JICA 職員、現地のオリンピック委員会、マラウイスポーツ省、大使館の方々協力して下さったときは、柔道で日本の一人の大学生がここまで世界とつながっていけるのだと非常に感動しました。



▲(柔道大会での集合写真)

■最後に

マラウイで自分は普通の大学生ではできない、大きな、そして多くの経験をしました。
 それをさせてくれた青年海外協力隊の制度、自分を今まで支え、育ててくれた柔道というものに感謝したいです。
 近年、日本では柔道の低人気化が言われていますが、世界につながっていくことのできるこのすばら

しい競技をもっともっと人に伝えたい。そのために大学生の自分ができること、大学生だからできることはきっとあると思います。今後はそれを探したいと思っています。

PR **せいぼからのお願い (Declan Somers)**



買うことが救うこと!
「マラウイのコーヒー」

一袋のコーヒー豆を買って頂くことで、10人の子どもたちに1食分の給食を提供できます。
 せいぼは、マラウイのミスク地区のコーヒーを100グラム1パックで販売しています。種類は、粉もしくは豆のどちらかを選ぶことができます。料金は全国一律で送料込みで1,000円となっております。
 購入方法は、まず、せいぼに寄付することから始まります。寄付する際に、粉、豆のどちらかご希望かを添えていただければと思います。皆様のご協力をお待ちしております。



「マラウイの野生動物カレンダー」
 「マラウイ野生動物環境社会保護会」(Wildlife and Environmental Society of Malawi)によって

作成されたマラウイの野生動物を多く取り扱ったカレンダーです。豊かなマラウイの自然環境と、個性豊かな野生動物が、きれいなデザインで載せられています。マラウイの魅力が分かる、数少ない貴重なカレンダーとなっております。限定在庫から、キャンペーンの形で一時的に販売させていただきます。一部3,000円となっております。一年間、一人の子どもが給食を食べることができます。御協力、宜しくお願い致します。
 Web: www.seibojapan.or.jp
 E-mail: info@seibojapan.or.jp

日本マラウイ協会
2016年9月～2017年2月
主な活動内容

- (1)2016.9.29 9月定例会、機関紙KWACHA第56号発行
- (2)2016.10.1.2 グローバルフェスタJAPAN出展
- (3)2016.10.27 10月定例会
- (4)2016.11.24 11月定例会
- (5)2016.12.24 納会&忘年会
- (6)2017.1.26 1月定例会
- (7)2017.2.22 2月定例会、西岡前大使講演会

日本マラウイ協会情報

■ **ご意見、ご質問をどうぞ**

電子メールによる日本マラウイ協会からのお知らせを受け取りたい方、当会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、
 E-mail: info@japan-malawi.org へご連絡ください。

■ **協力隊まつり2017に出展します**

4月22日と23日の二日間、市ヶ谷のJICA地球ひろばにて上記イベントが開催され、当会が参加出展致します。
 ホームページアドレス <https://www.facebook.com/jocvfestival/>
 お時間のある方は是非お越しください。

■ **「新帰国隊員報告会/マラウイ国情セミナー/シマを食べる会」開催日決定のお知らせ**

マラウイ共和国独立53周年記念の上記イベントを今年も駐日マラウイ大使館との共催で行います。

日 時 平成29年7月15日(土)
 14:00～ 受付開始
 14:30～ 新帰国隊員報告会
 15:00～ 駐日マラウイ大使による国情セミナー
 16:15～ シマを食べる会 (※メニュー変更の可能性あり)
 場 所 JICA地球ひろば 6Fホールおよび2Fカフェ
 東京都新宿区市谷本村町10-5
 JR中央線・総武線・東京メトロ有楽町線・都営地下鉄新宿線「市ヶ谷」下車、徒歩10分
 参加費 一人3000円
 (※当会会員、関係者の皆様には5月末にメールあるいは葉書にてご連絡しますが、通知が届かなくても参加は可能です。参加希望の方は当会のメールアドレス E-mail: info@japan-malawi.org までお申込み下さい)

■ **KWACHAバックナンバー閲覧出来ます**

当会は2017年2月26日に設立34周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第57号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。

■ **日本マラウイ協会 月次定例会にお越しください**

日本マラウイ協会では、原則毎月最終木曜日、19:00～、東京都内(原則：新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動についての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っています。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。なお、開催日等は突然変更になる場合もありますので事前(毎月頃まで)に当会までお問い合わせください。

■ **日本マラウイ協会 入会方法等**

当会ホームページのトップページの「入会案内」のアイコンをクリックするとメールフォーマットが出てきますので、所要事項を入力して送信してください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。継続会員の方の年会費(個人正会員の場合 3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれもどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

- (1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739
 口座名義：日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗
- (2)ゆうちょ銀行 ○一九店(ゼロイチキユウ店)
 当座預金口座 0013125
 口座名義：日本マラウイ協会
 (ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号：00190-7-13125)